

東南アジア日本食事情レポート①

シンガポール事務所

1. はじめに

シンガポール事務所の所管地域である東南アジアは、日本食品の輸出先として注目が集まっています。シンガポールや出張先で見聞きしたこと、当地で開催されるセミナー等から、多くの自治体が取り組む海外販路開拓のヒントとなり得る情報をお伝えします。自治体職員の視点で「今の東南アジア日本食事情」をお伝えします。

2. インドネシア、マレーシアの日本食市場

2013 年 1 月 30 日に JETRO シンガポール事務所が開催した「海外食品連絡協議会」に出席しました。「海外食品連絡協議会」は、JETRO の「東アジア食品産業海外展開支援事業」の一環として、日系食品産業のビジネス環境の改善や関心事項をテーマとして話し合うための場です。今回は、JETRO クアラルンプール事務所、ジャカルタ事務所から現地の日本食市場について情報提供がありましたので、以下に紹介します。

●インドネシア（ジャカルタ）の日本食市場

インドネシアは豊富な内需に支えられ安定した経済成長を続けています。2000 年から 2010 年の 10 年間で中間層は約 12 倍に増加しました。この市場に注目し、日本の外食産業の出店も増加しています。2012 年末の時点で、ジャカルタ特別州レストラン登録店舗数全 3960 店舗のうち、日本食メニューを出しているレストランは 363 店舗だとのことです。（インドネシア 600、中国 442、韓国 691：ジャカルタ特別州観光局）

しかしながら、2011 年インドネシアの食品輸入額に占める日本の食品輸入額はわずか 0.38%に過ぎません。（上位 3 位はアメリカ 15.44%、オーストラリア 13.47%、タイ 11.71%：JETRO 作成資料）日本食品は価格が高額であり、気軽に試すことが難しいこと、日本食品が販売されているのは富裕層向けの小売店に限定されていることが理由として挙げられていました。また、インドネシア政府は国内産品保護の方針を打ち出しており、輸入規制が強化されているとのこと。そのため、大手の食品会社はインドネシアに製造工場を設立し、現地で生産することで価格を下げようとしているとのこと。

●マレーシアの日本食市場

マレーシアの魅力として、分厚い高所得者・中所得者層の存在があります。所得格差はあるものの、高い購買力を持つ層が確実に増加しており、外食等への出費も収入増加に比例して伸びています。

日本食レストランは以前から存在しましたが、2011 年頃からは、日本のラーメン店、

その他専門店の出店ブームが続いているとのこと。ちょうど日本の食材のおいしさ、品質の高さが根付いてきたところと言えるでしょう。また、健康志向が高まっていることも日本食が受け入れられやすい環境であると言えます。今後は、新しい日本食品を現地の消費者にどのように紹介するか、ターゲットの明確化が課題であると紹介されていました。

●ハラール

マレーシア、インドネシアへの日本食品輸出・出店の際、課題となるのがハラール対応です。ハラールとは、イスラム教の戒律で「許されたもの」を意味します。ハラール認証とは、原材料や製造過程、商品の品質を厳格に審査し、規格に適合した商品を「認証」し、「ハラールマーク」を表示させることです。マレーシア政府はハラール認証手続きの支援を提供し、世界のハラールハブを目指しています。インドネシアでは、LPPOM-MUI（インドネシア・イスラム食品・薬品・化粧品検査局）により認証が行われています。認証の対象は食品・飲料はもちろん化粧品、衣料、飲食施設、食肉処理施設にまで及びます。マレーシアでは、ヤクルト、味の素などがハラール認証を取得しています。

2. シンガポール・バンコクの旧正月贈答品事情

シンガポールではクリスマスが終わった頃から、旧正月に向けた商品が販売され始めます。お菓子の詰め合わせ、フルーツの詰め合わせなど日本のお中元、お歳暮商戦に似ています。先日出張したバンコクでも旧正月に向けて、スーパーマーケットの特設売り場で贈答品が陳列されていました。みかんが縁起物として好まれるようで、形の良い大きなみかんがきれいな箱に入れられて販売されています。バンコクのスーパーマーケットの担当者は、「日本の果物は、価格は高いがおいしく形が良いので贈答品として非常に喜ばれる。この時期は、日本のみかんを販売したいが、すぐに売れてしまうので現在は韓国産や台湾産を並べている。」と話していました。自分で食す場合には高額で手が出ない日本の食品も贈答品として、需要が非常に高まるとのこと。



バンコクで販売されていた贈答品用みかんの詰め合わせ



縁起物のみかん（ポンカン）特設コーナーも

3. バンコクで食品展を開催

堅調な経済成長を続け、親日的な国柄で知られるタイは日本からの農林水産物・食品の輸出先として注目を集めています。特に首都バンコクにおいては、日本食レストランが1100店を超えるなど、日本食人気が高まっています。東南アジアでは、シンガポールに次いで日本食が浸透していると言われており地方自治体の物産プロモーションも、数多く実施されています。

(財)自治体国際化協会は、日本産の農林水産物や食料品の有望なマーケットとして、注目の集まるバンコクにおいて2013年11月に「日本ふるさと名産食品展 in タイ・バンコク」を以下の通り開催する予定です。地場産食品の東南アジア市場への販路開拓に取り組む地方自治体には食品展出展の機会やノウハウの提供など、また、出展企業には当食品展をテストマーケティングの機会としてご活用いただくなど、タイ市場開拓の足がかりとしていただくことを目的としています。

- (1) 名称：日本ふるさと名産食品展 (in タイ・バンコク)
- (2) 開催日程：2013年11月8日(金)～17日(日)10日間(予定)
- (3) 開催場所：タイ・バンコク都内百貨店【Siam Paragon】(予定)
- (4) 出展内容：日本国内で生産された食品
- (5) 主催：財団法人自治体国際化協会

●出展自治体・企業の募集については、4月初旬に自治体国際化協会支部宛に送付させて頂く予定です。御不明な点等ございましたら、シンガポール事務所 (info@clair.org.sg) までお問い合わせ下さい。



食品展開催場所の百貨店 Siam Paragon



Siam Paragon 地下のスーパーマーケットで食品展を開催

(新山所長補佐 東京都大田区派遣)